

ハンセン病家族の被害回復、差別解消に向けた始まり

◆ハンセン病家族が勝ち取った一歩
 国の隔離政策の結果、差別され、家族と一緒に暮らせなかったハンセン病家族の損害を認めた熊本地方裁判決が確定しました。7月24日には首相が直接、原告に謝罪。裁判への参加・不参加にかかわらず補償する協議が始まります。原告541人の訴えが、患者家族全体の被害に、国の目を向けさせました。

判決では様々な理屈、曰く「米軍施政権下の沖縄だった」、「らい予防法が廃止されるべき1960年以前の隔離だった」、「家族形成阻害の被害は完全に断絶された場合だけに限定する」などと20名が棄却されました。しかし、裁判を終わらせるために原告は団結し、国の控訴断念を引き出しました。

今後、沖縄家族を含めた被害者一律の補償措置が実現するよう、超党派の国会議員で力を尽くします。



衆議院議員あべともこ
プロフィール

神奈川県 12 区（藤沢市・寒川町）
 当選 7 回、東京大学医学部卒業、
 小児科医、あべともこどもクリニック（湘南台）理事長
 現在、厚労委員会・原子力問題調査特別委員会筆頭理事



https://twitter.com/abe_tomoko



<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

あべともこと共に歩む会後援会入会のご案内及びボランティアスタッフ募集中！

特定の企業や団体などに依存しないあべともこの活動は、後援会の年会費やカンパによって支えられています。あべともこの活動にご支援頂ける方は、お気軽に事務所にお問い合わせください。

立憲民主党神奈川県連

〒231-0012

横浜市中区相生町 4-69-4F

TEL 045-228-8591

FAX 045-228-8592



木下今朝義さん作「家族」（国立ハンセン病資料館（東村山市）の絵画展で阿部知子撮影）

右は熊本の療養所「菊池恵楓園」で家族と隔離されて暮らした木下今朝義さんの作品「家族」です。隔離收容政策によって何が起きたのか、社会全体で学ばねなりません。そして、何よりも差別解消のために全力を注ぐことが国には求められます。

◆ホルムズ海峽「有志連合」にNO
 イランに核兵器を持たせない核合意（米英仏独中露EU）から米国が一方的に離脱、イラン制裁を課した昨年につき、今年はホルムズ海峽で起きたタンカー攻撃を契機に、犯人不明のまま「航行の安全確保」を理由に有志連合への参加を米国が60カ国に呼びかけています。

しかし、かつて有志連合で始めたイラク戦争は誤りだったと総括した英を始め、独仏も、今回の米主導の有志連合には消極的。米抜きで核合意と安全確保を模索中です。

日本は、未だイラク戦争の総括も一切なし。新安保法制でさえ今回のような場合の自衛隊派遣は違法。今こそ、武力に頼らないエネルギーの安全保障の確立、憲法違反の新安保法制の廃止が急務です。有志連合参加ではなく、外交努力が必要です。